

語引き助詞研究文献目録 その1

成田徹男 加藤久雄 武市恵美子

助詞に関する研究の文献目録は、宮坂和江氏による「助詞研究文献総覧」が『国文学 解釈と教材の研究』（学燈社）の第4巻第9号（昭和34年6月発行）にあり、助詞研究に大いに利用され役立つものであった。

本文献目録は、その後昭和34年以降に発表された研究文献についての目録の必要性和、近年の日本語研究の動向、とりわけ連語論・格文法論・結合価文法・類義動詞の意味分析など、助詞のあり方にも重点のおかれる研究の隆盛から生じてきた「語引き文献目録」の必要性の両面を満足させようという目的で作られたものである。

本目録の方針と構成は次のとおりである。

- 1 明治以降、昭和54年12月までに発表された助詞に関する研究論文、及び単行本を収録対象とした。
- 2 ただし、一般文法書の部分としての助詞研究、及び「てにをは」研究などを対象とした学史的 연구は、収録対象から除外した。
- 3 文献収集に関しては、先の宮坂和江氏の「助詞研究文献総覧」と国立国語研究所の『国語年鑑』（秀英出版）（昭和29年版から昭和55年版まで）に負うところが大きい。
- 4 本目録の全体構成は以下のとおりである。

-
- | | |
|---------------|----------------|
| 1 助詞総論 | ⑩ マデ |
| 1. 1 単行本 | ⑪ その他（シテ、モテなど） |
| 1. 2 雑誌論文 | 3. 1. 3 格助詞比較論 |
| 2 作品別助詞研究 | ① ガとハ |
| 3 助詞各論 | ② ガとノ |
| 3. 1 格助詞 | ③ ガとヲ |
| 3. 1. 1 格助詞総論 | ④ ヲとニ |
| 3. 1. 2 格助詞各論 | ⑤ ニとヘ |
| ① ガ | ⑥ ニとト |
| ② ノ（付：ナ、ツ、イ） | ⑦ ニとデ |
| ③ ヲ | ⑧ ヨリとカラ |
| ④ ニ | 3. 2 係助詞 |
| ⑤ ヘ | 3. 3 副助詞 |
| ⑥ ト | 3. 4 並立助詞 |
| ⑦ デ | 3. 5 準体助詞 |
| ⑧ カラ | 3. 6 終助詞 |
| ⑨ ヨリ | 3. 7 接続助詞 |

このうち、今回の「語引き助詞研究文献目録 その1」では、「3. 1. 1 格助詞総論」までを収録した。

5 本目録の配列は、原則として最下位分類項目ごとに発表年順とした。ただし、「2 作品別助詞研究」については、作品をおよその時代順に分けて配列した。

同一題目で分載または連載のものは、初出の箇

所に併記した。

記載項目は、左より、①執筆者名、②論文題目または書名、③所収文献及び巻号または発行所、④発表年月、の順である。

目録に記載するにあたって、現物を見ることのできなかったものもあり、収録もれもあるかと思われる。大方の御教示をお願いする。

* 次の論文集に再録（加筆・訂正されたものもある）されている論文には該当するアルファベットを著者名の前に付した。なお、岡崎正継（編）『論集日本語研究 6 助詞』（有精堂）が現在編集集中である。

| | | | | |
|-----------------|--------------------|------------|-------------------|---------------|
| A 湯沢幸吉郎 （同上） | 国語学論考 同上（復刻） | 〔著作集 2〕 | 八雲書林・上田屋書店 勉誠社 | 昭15—2 54—8 |
| B 石垣 謙二 | 助詞の歴史的研究 | | 岩波書店 | 30—11 |
| C 松村 明 | 江戸語東京語の研究 | | 東京堂 | 32—4 |
| D 服部 四郎 | 言語学の方法 | | 岩波書店 | 35—12 |
| E 国広 哲弥 | 構造的意味論——日英両語対照研究—— | | 三省堂 | 42—12 |
| F 永野 賢 | 伝達論にもとづく日本語文法の研究 | | 東京堂 | 45—5 |
| G 森重 敏 | 日本文法の諸問題 | | 笠間書院 | 46—10 |
| H 時枝 誠記 | 時枝誠記博士論文集 等一冊 | 言語本質論 第一冊 | 岩波書店 | 48—10 |
| I 同上 | 同上 | 第二冊 文法・文章論 | 岩波書店 | 50—2 |
| J 三上 章 | 三上章論文集 | | くろしお出版 | 50—6 |
| K 佐伯 哲夫 | 語順と文法 | | 関西大学出版・広報部 | 51—12 |

1 助詞総論

1. 1 単行本

| | | | |
|----------------------|---|-------------------|--------------|
| 佐藤 信夫 | 助言例 | 著者 | 明23—6 |
| 広池千九郎 | てにをは廃止論 | 早稲田大学出版部 | 38—3 |
| 広池千九郎 | 日本文法 てにをはの研究 | 早稲田大学出版部 | 39—12 |
| 児山 敬一 | 文学語法概説・助詞篇 | 表現社 | 昭8—7 |
| 永田吉太郎 | 方言資料抄 助詞篇 | 著者（贈写版） | 8—11 |
| 新井無二郎 | 亘爾乎波の原理的研究 | 中文館 | 9—2 |
| 大塚 悦三 | 助詞と助動詞の研究 | 大倉広文堂 | 9—9 |
| 国立国語研究所 | 現代語の助詞・助動詞——用法と実例——〔報告3〕 | 秀英出版 | 26—3 |
| 田辺 正男 | 日本文法 助詞篇 上, 下 | （贈写版） | 26—4,9 |
| 富山市教育委員会 | 富山市児童言語調査第2集 代名詞・連体詞・助詞・接続詞篇 | * | 26—12 |
| 石垣 謙二 | 助詞の歴史的研究 | 岩波書店 | 30—11 |
| 此島 正年 | 国語助詞の研究——助詞史の素描—— | 桜楓社 | 41—3 |
| 根間 弘海 | 宮古方言における助詞の一部と代名詞の形態——日本語（東京方言）との対応比較において—— | 沖縄女子短期大学 （贈写版） | 43—11 |
| 松村明（編） | 古典語・現代語 助詞助動詞詳説 | 学燈社 | 44—4 |
| 橋本 進吉 | 助詞・助動詞の研究 | 〔著作集 8〕 岩波書店 | 44—11 |
| 鈴木一彦・林巨樹（編） | 品詞別日本文法講座 9 助詞 | 明治書院 | 48—2 |
| 鈴木 忍 （本書）編集委員会（編） | 教師用日本語教育ハンドブック③文法 I 助詞の諸問題 1 田辺博士古稀記念国語助詞助動詞論叢 | 国際交流基金 桜楓社 | 53—3 54—8 |

1. 2 雑誌論文

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------|---------------|
| 武谷 等 | てにをは不調歌弁明集解 | 文海 | 明28—3,5 |
| 物集 高見 | 作用言・形状言を承くる亘爾乎波 | 〔国文叢話〕 国学院雑誌 | 1—10 28—10 |
| 松尾捨治郎 | 天爾乎波私見 | 国学院雑誌 | 8—1 35—1 |

| | | | |
|--------------|--------------------------|--------------------|------------|
| 長山 慶七 | 天爾乎波私見を読む | 国学院雑誌 8-3 | 明 35- 3 |
| 松尾捨治郎 | 天爾乎波私見について | 国学院雑誌 8-8 | 35- 8 |
| 森 無黄 | 軽薄なる手尔波 | 卯杖 | 36- 2 |
| 藤岡 好古 | 助辞講義 | わか竹 | 42-6~44-10 |
| 大井 広 | 豆爾乎波に就て | 潮音 15-3 | 昭 4- 3 |
| 大井 広 | 豆爾乎波の詩的發展 | 潮音 15-8 | 4- 8 |
| 塚本 哲三 | 助詞の重要性について | 草上 | 5- 2 |
| 橋 正一 | 盛岡辯のテニヲハ | 方言と土俗 | 6- 3 |
| 細谷 則理 | 平鹿辯のテニヲハ | 方言と土俗 | 6- 4 |
| 松崎 未義 | 国語読本に表れたる助詞について | 国語教育 | 6-11 |
| 金森 久二 | 滑川町に於ける助詞考察(一)(二) | 越中方言研究彙報 4, 5 | 7- 1, 5 |
| 田中 健三 | 文法瑣談——助詞について—— | 国漢研究 | 7- 4 |
| 金森 久二 | 助詞考察(富山県) | 越中方言研究彙報 | 7- 8 |
| 東条 操 | 助辞論の一, 二 | 教育国語教育 | 7-11, 12 |
| 能田太郎他 | 文例方言譯(助詞と処格) | 土の香 8-3(44) | 8- 1 |
| 児山 敬一 | 文学語としての助詞概説 | 短歌表現 | 8- 2 |
| 斎藤 秀一 | 荘内方言に於ける助詞 | 方言と土俗 | 8- 3 |
| 菊沢 季生 | 児山君の『文学語法概説・助詞篇』を読んで | 短歌表現 | 8- 8 |
| 石田 春昭 | 石見の助詞に就て(は・を・へ・ば) | 土の香 12-3(68) | 9- 6 |
| 山口麻太郎 | 老岐方言助詞法(上)(下) | 国語教育 | 10- 2, 3 |
| 金原 省吾 | 言葉の持続性——国語助詞の一特性について—— | コトバ 5-4 | 10- 4 |
| 橋 正一 | 助詞の方言分布 | 国語研究 3-12 | 10-12 |
| 北条 忠雄 | 方言語法に関する管見及び考察(2) | 方言 7-3, 5 | 12- 4, 6 |
| H 時枝 誠記 | 文の解釈上より見た助詞助動詞 | 文学 5-3 | 12- 3 |
| 保井 克己 | 助詞考 | コトバ 7-6 | 12- 6 |
| 金原 達吉 | 助詞の未決定性に就て | 国文学研究 | 13-11 |
| 植村 邦正 | 中等教科大典に於ける文語助詞の取扱 | 国語教室 | 14-12 |
| 亀井 孝 | 日本語の論理的構造 六——「てにをは」の発見—— | 国語教育 | 15- 2 |
| 木枝 増一 | 児童語法講話 | 実践国語教育 | 15-11 |
| 来島 眷吾 | 作文を通じて見たる助詞の一考察 | 日本語 | 17- 7 |
| マツサカ タダノリ | ワカチガキニツイテ | カナノヒカリ | 18- 4 |
| 片山 九重 | 「助詞の使ひわけ」窮策 | 華北日本語 | 18-10 |
| C 松村 明 | 助詞の異同について | 日本語 4-3 | 19- 3 |
| 岡本千万太郎 | 係助詞・副助詞と格 | 「橋本博士還暦記念国語学論集」 | 19-10 |
| B 石垣 謙二 | 助詞史研究の可能性 | 国語と国文学278(24-6) | 22- 6 |
| D 服部 四郎 | 付属語と付属形式 | 言語研究 15 | 25- 4 |
| 大野 晋 | 言語過程説に於ける詞・辞の分類について | 国語と国文学313(27-5) | 25- 5 |
| I 時枝 誠記 | 対人関係を構成する助詞・助動詞 | 国語国文 20-9 | 26-12 |
| 佐伯 梅友 | まぎれやすい助動詞や助詞の見分け方 | 解釈と鑑賞 | 27- 2 |
| 塚原 鉄雄 | 自立語付属語と詞辞——日本文法の整理—— | 解釈と鑑賞 | 27-12 |
| 桑田 明 | 助詞の機能 (研究発表要旨) | 国語学 13・14 | 28-10 |
| 糸井 寛一 | 時枝文法学説における詞・辞と語 | 大分大学学芸学部 研究紀要 2 | 28- 3 |

| | | | |
|--------------|------------------------------------|----------------------|-----------------------|
| 武田 祐吉 | 助詞の歴史的分類法に就いて | 「金田一博士古稀記念 言語民俗論叢」 | 昭 28- 5 |
| 時枝 誠記 | 言語における主体的なもの | 「同 上」 | 28- 5 |
| F 永野 賢 | 表現文法の問題——複合辞の認定について—— | 「同 上」 | 28- 5 |
| 原田 芳起 | 詞辞の分類並びにその下位分類における原理的な問題 | 語文 | 28- 7 |
| 沖田 嘉子 | 静岡県金谷方言の助詞について | しのめ | 28- 9 |
| 伊吹 武彦 | 助詞とニュアンス | 「ことばの研究室 I (NHK編)」 | 29- 1 |
| 菅野 宏 | 言語過程説における詞辞 | 国語学 16 | 29- 3 |
| 竹岡 正夫 | てにをは論——“詞・辞”批判—— | 香川大学学芸学部 研究報告 1-4 | 29- 3 |
| 原田 芳起 | 接尾語・形式名詞・辞 | 語文(阪大) 11 | 29- 3 |
| I 時枝 誠記 | 詞と辞の連続・非連続の問題 | 国語学 19 | 29-12 |
| 原 朗 | 播州方言の助詞 | 国文論叢(神戸大)11 | 30- 1 |
| 北山 正迪 | 助詞助動詞(辞)考察のための「文」試論 | 国語国文 24-7 | 30- 7 |
| 鈴木 太良 | 作歌と助辞と(1~6) | 潮汐 | 30-5, 6, 7, 9, 10, 12 |
| 山田 忠雄 | 「てにをは」の研究とその指導 | 教育技術中学国語 | 31- 1 |
| 安田喜代門 | 詞と辞 (研究発表要旨) | 言語研究 29 | 31- 3 |
| 熊代 義一 | 「と」に誘われて——中学校の文法指導—— | 実践国語 | 31- 1, 3 |
| 小久保崇明 | 中学文法における文節の取扱い—助詞を中心として— | 解釈 14 (2-6) | 31- 6 |
| 竹岡 正夫 | 「詞」と「辞」について——時枝文法への批判—— | ことばの教育 | 31- 7 |
| I 時枝 誠記 | 言語過程における「詞」と「辞」 | ことばの教育 | 31- 7 |
| 奥村 三雄 | 辞の形態論的研究 | 国語国文 25-9 | 31- 9 |
| 時枝 誠記 | 竹岡正夫氏の詞辞論批判に答える | ことばの教育 | 31- 9 |
| 鴨岡 幹夫 | 格助詞接続助詞の考察——指導資料として—— | 実践国語 | 31-10 |
| 為貞 節穂 | 古文解釈に於ける助詞の表現法 | 国文学 | 31-11 |
| 竹岡 正夫 | 詞・辞の本質について——時枝博士に答える—— | ことばの教育 | 31-11, 12 |
| 鴻島 義浩 | 低学年における語法指導——一年生における助詞について—— | 実践国語 | 31-12 |
| 金岡 孝 | 言語過程説に於ける複合語の取扱いについて——複合語と詞・辞の問題—— | 清泉女子大学紀要 4 | 32- 2 |
| 望月 誼三 | つづりかたと文法——子どもたちの文のつづりかたと気持ちの表しかた—— | 言語生活 66 | 32- 3 |
| 為貞 節穂 | 古文に現われない助詞の表現について | 国語研究 | 32- 4 |
| 浅見佐久江 | 助詞の機能のあらわれかたについて—相互承接と分類— | 女子大國文 6 | 32- 6 |
| 長船 省吾 | 詞と辞とを区別する規準について | 国語学 29 | 32- 6 |
| 尾崎雄二郎 | 国語における詞辞の分類について(-) | 立命館文学 146 | 32- 7 |
| I 時枝 誠記 | 長船省吾氏の詞と辞との区別に関する論文を読む | 国語学 30 | 32- 9 |
| 青木 伶子 | 助詞の分類について | 「日本文法講座 1」 | 32-11 |
| 渡辺 実 | 副用語・付属語 | 「同 上」 | 32-11 |
| 飯豊 毅一 | 辞の機能 | 「講座現代国語学 II」 | 32-12 |
| Miyake Takeo | テニヲハ問題——日本文法ことはじめ—— | 実践国語 | 33- 1 |
| 宮地 裕 | ことばの使い方——助詞・助動詞 | 「日本文法講座 5」 | 33- 1 |
| 岩淵悦太郎 | 助詞のはたらき | 解釈と鑑賞 23-4 | 33- 4 |
| 佐藤喜代治 | 助詞にはどんなテーマがあるか——卒業論文を書く方々のために—— | 解釈と鑑賞 23-4 | 33- 4 |
| Miyake Takeo | 「が」と「こそ」 | 実践国語 | 33- 4 |
| 此島 正年 | 助詞 | 「統日本文法講座 1」 | 33- 5 |

| | | | |
|--------------|--|---------------------------|--------|
| 渡辺 実 | 詞と辞 | 「同上」 | 昭33- 5 |
| 渡辺 実 | 辞の連続——述語をめぐる四要素との関連において—— | 国語学 33 | 33- 6 |
| 佐伯 梅友 | 口語の文法の変遷 | 「国語教育のための 国語講座5」 | 33- 8 |
| 三尾 砂 | 口語の文法の特徴 | 「同上」 | 33- 8 |
| 稲村 徳 | 教授技術からみた文語助詞の扱い方 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 奥田 勝利 | 中学における文語文法（助詞の学習について） | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 金田一春彦 | 助詞の本質 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 佐伯 梅友 | 助詞の史的展開 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 白石 大二 | 助詞に関する諸学説と研究の現段階 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 田辺 正男 | 助詞の問題点——卒業論文を書く人のための—— | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 次田 香澄 | 古文解釈における助詞の扱い | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 宮坂 和江 | 助詞研究文献総覧 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 保坂 弘司 | 解釈文法における助詞の位相 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 湯沢幸吉郎 | 助詞のあつかいについて（巻頭言） | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 学燈社 国語調査室 | 〔付表〕現代高校文語文法教科書助詞取扱一覧 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 高野 忠興 | 助詞の分類 | 北海道学芸大学紀 要 10-1 | 34- 7 |
| 土肥 常雄 | 助詞の分類 | 国文学攷 23 | 35- 5 |
| G 森重 敏 | 助詞はどんな役目をする言葉か | 解釈と鑑賞 28-7 | 38- 6 |
| 土肥 常雄 | 係・副・間投三助詞の区別とその高校教育における取 り扱い方——統「助詞の分類」—— | 国語教育研究 8 | 38-12 |
| 藤井 信男 | ことわざと助詞——語論のこころみ—— | 実践国語 293 | 39- 7 |
| 青木 康子 | 文章表現の基底にあるものと助詞の関係 | 実践国語 297 | 39-11 |
| 蜂矢 宣朗 | 説添へる助詞と説添へぬ助詞 | 山辺道 10 | 40- 1 |
| 岡村 和江 | 付属語 | 「口語文法講座6」 | 40- 3 |
| 杉山 栄一 | 助詞の細分 | 「口語文法講座2」 | 40- 4 |
| 脇 道夫 | 淡路方言——活用語と助詞に関して—— | 〔兵庫県立洲本高 等学校 国語班〕 | 40-11 |
| 松永 信一 | 助詞の分類——表現学の立場から——〔研究発表要旨〕 | 表現研究 臨 | 41- 5 |
| 田村すゝ子 | 文法——助詞など—— | 「講座日本語教育2」 （早大語学教育研究所） | 41- 7 |
| 石沢胖（編） | （付）高校文語文法教科書助詞取扱一覧 | 国文学 12-2 | 42- 1 |
| 春日 和男 | 助詞研究の歴史と展望 | 国文学 12-2 | 42- 1 |
| 佐藤喜代治 | 古典解釈と助詞 | 国文学 12-2 | 42- 1 |
| 松村 明 | 助詞について | 国文学 12-2 | 42- 1 |
| 森岡 健二 | 作文における助詞の問題 | 国文学 12-2 | 42- 1 |
| 上村 孝二 | 南九州方言文法概説——助動詞・助詞—— | 薩摩路 12 | 43- 1 |
| 春日 正三 | 諸方言の助詞 | 立正大学文学部論 叢 30 | 43- 1 |
| 日下部文夫 | 現代語における助詞分類の基準——助詞の相関—— | 言語研究 53 | 43- 3 |
| 川瀬 生郎 | 助詞の分類法についての一試案と若干の助詞について の考察 | 日本語教育 11 | 43- 4 |
| 古瀬 順一 | 島原半島方言の助詞(1) | 愛知教育大学研究 報告 18 | 44- 2 |
| 佐藤 亨 | 関東方言における待遇表現——助動詞・助詞による対 者尊敬表現について—— | 文芸研究 61 | 44- 2 |

| | | | |
|---------|--|---------------------------|-------------|
| 穂田 定樹 | 助詞を中心とする解釈上の問題（古典語） | 国文学 14-7 | 昭44- 5 |
| 加藤 彰彦 | 助詞を中心とする表現上の問題（現代語） | 国文学 14-7 | 44- 5 |
| 田谷 鋭 | 表現のために——助詞・助動詞をめぐる—— | 短歌 16-5 | 44- 5 |
| 岡崎 正継 | 解釈上の問題点——古文の場合—— | 文法 2-5 | 45- 3 |
| 此島 正年 | 日本語と助詞 | 文法 2-5 | 45- 3 |
| 日下部文夫 | 分類上の問題点 | 文法 2-5 | 45- 3 |
| 松永 信一 | 解釈上の問題点——現代文の場合—— | 文法 2-5 | 45- 3 |
| 渡辺 実 | 助詞と助動詞の境 | 文法 2-5 | 45- 3 |
| 小松 寿雄 | 係助詞・終助詞・間投助詞 | 文法 2-6 | 45- 4 |
| 菅野 宏 | 格助詞・副助詞そして接尾語 | 文法 2-6 | 45- 4 |
| 大野 晋 | 助詞の機能と解釈 | 解釈と鑑賞 35-13 | 45-11 |
| 此島 正年 | 助詞の研究史と課題 | 解釈と鑑賞 35-13 | 45-11 |
| 佐藤喜代治 | 助詞の史的展開 | 解釈と鑑賞 35-13 | 45-11 |
| 白石 大二 | 古典解釈と助詞 | 解釈と鑑賞 35-13 | 45-11 |
| 長田 久男 | 作文教育と助詞 | 解釈と鑑賞 35-13 | 45-11 |
| 浅野 信 | 日本文法文体をつくる「助詞」 | 国学院雑誌 72-2 | 46- 2 |
| 石黒 昭博 | 日本語助詞学習上の干渉について——深層構造と対照文法の一面—— | 「岩倉具実教授退職記念論文集 言語学と日本語問題」 | 46- 9 |
| 中松 竹雄 | 琉球語文法ノート 宮古島ウルカ方言の助詞の形態と用法 | 琉球大学教育学部紀要 14 | 46-12 |
| 野原 三義 | 「百控琉歌」の助詞(3)「や」の部 | 国際大学国文学 4 | 47- 3 |
| 大津不二也 | 助詞における日・琉関係 | 国文学研究 8 | 47-11 |
| 井上増次郎 | 叙法の助詞 | 神戸海星女学院大短大研究紀要 12 | 48-12 |
| 安達 隆一 | 日本語の生成理論における助詞の位置づけ——助詞の生成という考え方について—— | 「烏田勇雄先生退官記念 ことばの論文集」 | 50- 3 |
| 岡本 勲 | ヘボン日本語文法体系 助詞をめぐる | 文学紀要(中京大)9-3 | 50- 3 |
| 小西 友七 | テニヲハと英語の前置詞 | 英語教育 25-10 | 51-12 |
| 石川 明子 | 江戸時代庄内方言の助詞と助動詞——郷土本を資料として—— | 山形方言 13, 14 | 昭52-1, 53-2 |
| 大野 晋 | 日本語の助動詞と助詞 | 「岩波講座日本語 7」 | 52- 2 |
| 西田 直敏 | 助詞(1) | 「同 上」 | 52- 2 |
| 安田 章 | 助詞(2) | 「同 上」 | 52- 2 |
| 田中 章夫 | 助詞(3) | 「同 上」 | 52- 2 |
| 塚原 鉄雄 | 国語助詞の構文機能 | 国語国文 46-5 | 52- 5 |
| 日下部文夫 | 助詞の意味体系 | 言語 6-6 | 52- 6 |
| 石井 典子 | 初心教師の学習「てにをは」を中心としての小テストをめぐる | 日本語教育研究15 | 52- 7 |
| 鎌田良二(編) | 方言助詞集(格助詞・接続助詞・副助詞篇)——近畿・(中国)・四国 | 甲南国文 26 | 54- 3 |
| 藤友 雄暉 | 幼児の助詞の理解と生成に関する発達的研究 | 人文論究(北海道教育大) 39 | 54- 3 |
| 藤友 雄暉 | 幼児の助詞の習得に関する発達的研究 | 教育心理学研究27-1 | 54- 3 |
| 小林 国雄 | 学校文法における助動詞・助詞 | 「田辺博士古稀記念 国語助詞助動詞論叢」 | 54- 8 |
| 原土 洋 | 文構成過程に基づく辞の分類——特に助詞・助動詞について—— | 「同 上」 | 54- 8 |
| 吉田 金彦 | 古典を読むための文法早わかり辞典 助詞 | 国文学24-12増 | 54- 9 |

2 作品別助詞研究

| | | | |
|----------------|--|---------------------------------------|----------------------------|
| 森山 隆 | 上代語研究の現段階 助詞 | 文法 3-1 | 昭45-11 |
| 森重 敏 | 修飾語格小見——上代の助辞「な、に、の、が」(1~3) | 国語国文17-1, 3, 4 | 23- 2, 5, 7 |
| 塚原 鉄雄 塚原 幸子 | 連体格を構成する助詞二つ——格助詞〈な〉と格助詞〈つ〉と—— | 万葉 30 | 34- 1 |
| 佐伯 梅友 | 二三の助詞をめぐりて | 「上代国語法研究」 | 41-12 |
| 白藤 礼幸 | 上代漢字文疑問助辞考——乎・哉・耶・歟について | 国語学 68 | 42- 3 |
| 浅見 徹 | 祝詞と宣命における助詞の用法 | 国語国文 25-11 | 31-11 |
| 夏井 邦生 | 「古事記」の助詞の表記——表記と訓の固定化について | 「田辺博士古稀記念 国語助詞助動詞論叢」 | 54- 8 |
| 山崎 春一 | 万葉集の助詞に就て | とねりこ | 5-10 |
| 橋本 徳寿 | 万葉集の助辞 | 「短歌講座9」(改造社) | 7- 7 |
| 林 大 | 万葉集の助詞 | 解釈と鑑賞 | 28-12 |
| 林 大 | 万葉集の助詞 | 「万葉集大成・言語篇」 | 30- 5 |
| 野本 秀雄 | 万葉の助詞 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 田辺 正男 | 万葉集と上代語法(助詞) | 「講座解釈と文法2」 | 35- 2 |
| 森重 敏 | 「か」より「や」への推移統紹 | 「沢瀉博士喜寿記念 万葉学論叢」 | 41- 7 |
| 浅見 徹 | 万葉集の文法 助詞の問題点 | 解釈と鑑賞 31-12 | 41-10 |
| 高田 昇 | 万葉集作者別品詞別総索引(柿本人麻呂編)——(3)助動詞・助詞の部—— | 文学会論集(甲南大) 35 | 42-12 |
| 津之地直一 | 万葉集における「ずは」の語法 | 「万葉集の国語学的研究」 | 50- 6 |
| 徳田 政信 | 万葉「馬莫疾打莫行」考——異例の係結の再検討 | 「田辺博士古稀記念 国語助詞助動詞論叢」 | 54- 8 |
| ◇ | ◇ | ◇ | ◇ |
| 中川 浩文 | 竹取物語における本文の策定——主として助詞・助動詞を中心に(2)~(6) | 女子大国文45, 46, 48, 53 龍谷大学論集389, 390 | 昭42- 5~ 44- 5 |
| 上田 年男 | 源順集と曾丹集との助詞使用法に現れたる二、三の問題(一)~(五) | 帯木 | 11- 3~7 |
| 宇都宮陸男 | 紫式部日記の文体——助動詞・助詞の連結から見た—— | 国語教育研究(広島大) 11 | 41- 4 |
| 中川 浩文 | 源氏物語の助詞接続統計数表(一)~(四) | 国文学論叢(竜谷大学) | 26-5, 28-1, 30-5, 32-12 |
| 北山 谿太 | 助詞の省略・係結など——源氏物語の語法研究—— | 国語と国文学 252(3-8) | 28- 8 |
| 宮田和一郎 | 源氏物語・枕草子の助詞 | 解釈と鑑賞 | 28-12 |
| 此島 正年 | 源氏物語の助詞 | 「源氏物語講座7」 | 46-11 |
| 梅原 恭則 | 平安時代における助詞機能の考察——源氏物語の相互承接現象をめぐって—— | 東洋大大学院紀要 8 | 47- 3 |
| 岩井 良雄 | 助詞 | 「源氏物語語法考」 | 51- 6 |
| 原田 清 | 「ものしが」か「しがあし」か——土佐日記解釈の或る観点に就いて—— | 国語と国文学 208(18-8) | 16- 8 |
| 小久保崇明 | 中古における助詞「よ」の一性格 | 「大鏡の語法の研究」 | 42- 3 |
| ◇ | ◇ | ◇ | ◇ |
| 長瀬 富子 | 室町時代の疑問表現——助詞を中心として—— | 言語と文芸 9-5 | 42- 9 |
| 大西 善明 | 〔特集「徒然草」の助詞・助動詞〕〔助詞・助動詞を中心としてみた諸本の特質〕光広本・常縁本 | 文法 2-10 | 45- 8 |
| 桑原 博史 | 〔同上〕〔同上〕正徹本 | 文法 2-10 | 45- 8 |

| | | | |
|-------|---|-------------------------|--------|
| 松尾 拾 | 〔同 上〕〔助詞・助動詞を中心とした『徒然草』の文法〕 助詞 | 文法 2-10 | 昭45- 8 |
| 白石 大二 | 〔同 上〕〔同 上〕 句読点と助詞・助動詞 | 文法 2-10 | 45- 8 |
| 坂詰 力治 | 『論語抄』の漢文訓読語についての一考察 特に接続詞・副詞・助動詞・助詞を中心として | 文学論藻 46 | 46- 6 |
| 松本 重雄 | 天草本金句集に現れた助詞 | 国語研究 | 11-10 |
| 桜井 茂治 | 日本語の旋律史からみた助詞の問題——仏教音楽を中心として | 「田辺博士古稀記念 国語助詞助動詞論叢」 | 54- 8 |
| 阿部 八郎 | 『今昔物語集』本朝仏法部の主格助詞 | 「同 上」 | 54- 8 |
| 米野 正史 | 春秋経伝集解卷十保延五年点にみられる助詞について | 「同 上」 | 54- 8 |
| 此島 正年 | 「とはずがたり」の語法——助動詞・助詞を中心に | 「同 上」 | 54- 8 |
| 高橋 宏幸 | 神田本白氏文集天永本の付属語について | 「同 上」 | 54- 8 |
| 森 孝宏 | 古今伝授における付属語の声点について——金刀比羅本を資料として | 「同 上」 | 54- 8 |

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

| | | | |
|--------|----------------------------------|-------------------------|-------------|
| 田中 千熊 | 読本内容に交渉する助詞の働を観る | 日本文学 | 昭 7-11 |
| C 松村 明 | 江戸語における語連接上の音韻現象——浮世風呂・浮世床を資料として | お茶の水女子大人 文科学紀要 4 | 28-12 |
| 奥山 享吉 | 近世江戸語の助詞——副助詞・終助詞・間投助詞について—— | 国学 | 15- 3 |
| 小島 俊夫 | 助詞・助動詞・補助動詞 | 「後期江戸ことば の敬語体系」 | 49- 9 |
| 松田 貞三 | 柿蔭集助詞の一考察 | とねりこ | 5- 9 |
| 塚本 哲三 | 主として助詞の用法より見たる芭蕉俳句の異同 | 草上 | 5-12 |
| 大森 桐明 | 俳句文法上の一考察 | 草上 | 7- 6 |
| 井上隅川子 | 俳句に於ける助詞の考察 | 石楠 | 7- 6 |
| 松下大三郎 | 切字論 | 「俳句講座」3(改造社) | 7-11 |
| 井上隅川子 | 俳句の終止としての助詞(三)(四)(五) | 石楠 | 8- 7, 8, 10 |
| 中島 唯一 | 俳諧と豆爾乎波 | 俳句研究 | 11- 2 |
| 岩崎 拱子 | 善徳纂「約翰福音之伝」の異本における助詞の異同 | 「田辺博士古稀記念 国語助詞助動詞論叢」 | 54- 8 |
| 新山 茂樹 | ギュツラフ訳聖書「約翰上中下書」の助詞・助動詞について | 「同 上」 | 54- 8 |

3 助詞各論

3. 1 格助詞

3. 1. 1 格助詞総論

| | | | |
|---------|-------------------------------|---------------|------------|
| 岡倉由三郎 | 主格を示す本来の辞 | 帝国文学 | 明33- 2 |
| 杉 敏介 | 名詞・代名詞の格について | 国学院雑誌18-9, 10 | 大 1- 9, 10 |
| 松下大三郎 | 名詞の格の研究 | 国学院雑誌29-3, 4 | 大12- 3, 4 |
| 大湾 政和 | 琉球語の主格助詞について | 音声学協会会報26 | 昭 7- 5 |
| 大湾 政和 | 琉球語の主格助詞について(訂正) | 音声学協会会報29・30 | 8- 5 |
| 本位田重美 | 主語と提示語と | 国語国文 5-11 | 10-10 |
| A 湯沢幸吉郎 | 「以て」の品詞的取扱 | 国語解釈 2-4 | 12- 4 |
| 亀井 孝 | 日本語の論理的構造 九 ——格表示の膠着の手順について—— | 国語教育 | 15-12 |
| 三宅 武郎 | 潜格助詞の発掘(単語形成とアクセント法則8) | コトバ(復刊)3-2 | 16- 2 |

| | | | |
|-----------|---|---------------------------|-------|
| 藤林 忠 | 係助詞と格助詞とを含む文の表現形式 | 山口大学教育学部 研究論叢 2 | 昭 28- |
| 神保 格 | 所謂心理的主部述部について | 「金田一博士古稀記念 言語民俗論叢」 | 28- 5 |
| 宮田和一郎 | 「にて待り」助詞「て」——中古語法覚書 | 平安文学研究 12 | 28- 6 |
| 田中重太郎 | 「にて」の語法 | 平安文学研究 | 29-12 |
| 鈴木 康之 | 日本語における名詞の格について | ローマ字世界 11 | 30-11 |
| 堀川勝太郎 | 表現の心理と格助詞 | 実践国語 10 | 30-11 |
| 浅野 信 | 特殊な主体の系譜——その文章史における—— | 国学院雑誌 57-7 | 31-12 |
| 柴田 武 | 格・人称 | 「日本文法講座 1」 | 32-11 |
| J 三上 章 | 主語存置論に反対 | 国語国文 27-1 | 33- 1 |
| 土井 忠生 | 古典解釈のための助詞・格助詞 | 解釈と鑑賞 23-4 | 33- 4 |
| J 三上 章 | 主格の相対的優位 | 国語学 33 | 33- 6 |
| 川端 善明 | 動詞文・格 | 国語国文 28-3 | 34- 3 |
| 丸山 和雄 | 複合助詞の語彙と用法〈特殊研究〉 | 国文学 4-9 | 34- 6 |
| 山本 信道 | 格・格助詞について | 紀要（共立女子短大）3 | 34-12 |
| E 国広 哲弥 | 日本語格助詞の意義素試論 | 島根大学論集 12 | 37-12 |
| 白石 大二 | 受ける格助詞と用言の性格 | 日本語教育 8 | 41- 3 |
| K 佐伯 哲夫 | 複合格助詞について | 言語生活 178 | 41- 7 |
| 宇部言語教育研究会 | 一時間をとっての格助詞・副助詞の教え方——小学四年生の例—— | 国語の教育 3 | 43- 7 |
| 古田 東朔 | 日本語における近代化の一傾向——文末群から見た「標準語」の形成過程—— | 研究論文集（文科系学会連合）19 | 44- 3 |
| 木之下正雄 | 助詞小辞典 格助詞 | 文法 2-5 | 45- 3 |
| 平河内健治 | 「場所」を表わす格と「時」を表わす格の日英比較 | 英語教育 23-10 | 49-12 |
| 愛宕八郎康隆 | 奥能登珠洲方言の主部助詞の諸相 | 人文科学研究報告（長崎大）24 | 50- 3 |
| 輝 博元 | 喜界島・荒木方言の名詞形態論(1)——「てだて」格・「しどころ」格について | 「島田勇雄先生退官記念 ことばの論文集」 | 50- 3 |
| 佐藤 洋子 | 日本語の格助詞とドイツ語について | 「講座日本語教育11」（早大語学教育研究所） | 50- 6 |
| 高橋 太郎 | 文中にあらわれたる所属関係の種々相 | 国語学 103 | 50-12 |
| 甲斐 睦朗 | 現代日本語における格助詞の意味的構造 | 国語国文学報（愛知教育大）29 | 51- 3 |
| 丹保 健一 | 移動動詞の構造的意味——「場所に関する名詞+格助詞」との結合に注目して—— | 「佐藤喜代治教授退官記念 国語学論集」 | 51- 6 |
| 青木 伶子 | 所謂副詞語尾の「に」について——格助詞の下位分類に及ぶ | 「松村明教授還暦記念 国語学と国語史」 | 52-11 |
| 井上 和子 | 格助詞と文法関係 | 「1977年特定研究言語シンポジウム講演論文集1」 | 52-11 |
| 工藤 力男 | 格助詞と動詞との相関についての通時的考察 | 岐阜大教育学部研究報告 人文 26 | 53- 2 |
| 布村 政雄 | 格助詞 渡辺実君の構文論をめぐって | 宮城教育大 国語国文 9 | 53- 4 |
| 河野喜美子 | 動詞文とは 格助詞と動詞 | 日本語教育研究18 | 54- 2 |
| 永保 君恵 | サンスクリットの「格」について 日本語学習の立場から見た | 日本語教育研究18 | 54- 2 |
| 松岡 弘 | ドイツ語圏日本語学習者の作文にあらわれた誤用例の分析 特に助詞および前置詞相当句の誤用について | 日本語学校論集 6 | 54- 3 |